

おのおのずいぶん ほ け きょう しん
 各々随分に法華經を信ぜら
 れつるゆえに、過 去 の 重 罪
 を せ め い だ し 給 い て 候 。 た
 と え ば 、 鉄 を よ く よ く き た
 え ば き ず の あ ら わ る る が ご
 と し 。 石 は や け ば は い と な
 る 。 金 は や け ば 真 金 と な る 。

(御書新版1474ページ・御書全集1083ページ)

通解

あなたたち（＝池上兄弟）は、
 懸命に法華經を信じてきたので、
 過去世の重罪を責め出されてい
 るのです。例えば、鉄を十分に
 鍛え打てば内部の傷が表面に現
 れるのと同様である。石は焼け
 ば灰となる。金は焼けば真金と
 なる。

 みが
 試練が自身を磨き上げる

よくわかる解説

皆さんこんにちは、レオです！ 新学期も御書を学び、元気に挑戦の日々を送ろう！

「兄弟抄」は、1276年（建治2年）、日蓮大聖
 人が、武蔵国池上（現在の東京都大田区）の門下で
 ある池上宗仲、宗長兄弟と、その夫人たちに送られ
 たお手紙です。

池上家は有力な工匠で、鎌倉幕府に仕えていまし
 ました。ところが、父が兄弟の法華經の信仰に反対し、兄・
 宗仲を勘当（親子の縁を切ること）します。武家社
 会における勘当とは、家督相続権を失うことを意味
 し、経済的な基盤も社会的な身分も奪われるという
 厳しい圧迫でした。本抄は、その事件の報告に対す
 る激励のお手紙です。

仏法では、今世の苦難は過去世の行い（罪）が原
 因であり、正しい教えを実践することで、あえて苦
 難を引き出し、重い罪の報いを軽く受けて消滅させ
 ることができると説いています。

大聖人は、池上兄弟が苦難を受けているのもこの

法理の通りであり、信心によって必ず乗り越えられ
 ると教えられています。その例えとして、鉄の鍛錬
 を挙げられます。鉄は熱して鍛えていくと、内部の
 不純物がたたき出され、その作業を繰り返していく
 ことで一段と強靱になります。

さらに大聖人は、石は焼けば灰となるのに対し、
 金は焼けば真金となることを示されます。

僕たちの生活に置き換えると、悩みにぶつかった
 時、現実から目を背けずに、“今こそ自分を磨く時だ”
 と勇気を出して立ち向かうことが大切なんだ。題目
 を唱えて一生懸命に祈り、目の前のことに挑戦して
 いけば、必ず成長していけるよ。

池田先生は「難のない平坦な道は楽です。しかし、
 苦難の坂を登り切っていけば、見晴らしの良い山の
 頂に立つことができる」と語っています。

大変なときこそ、大きく成長するチャンス！ 題
 目をあげながら勉強や部活動など、全てのことに挑
 戦して、自身を磨いていこう！